

「出動！熊野を盛り上げ隊」

本単元で育成する資質・能力

スキルアップ、表現力、協働

- 1 日時 令和6年 9月 18日 5校時
 2 場所 1年 1・2・3組 教室
 3 学級 第1学年 107名（男子62名 女子45名）

単元について

本単元は、第1学年の総合的な学習の時間の中で、「郷土」をテーマに実施する単元である。『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』には、総合的な学習の時間の目標を達成するにふさわしい探究課題として4点示されており、そのうちの「地域や学校の特色に応じた課題」として、本単元を設定した。本単元は、「熊野の活性化」を学習課題としている。地域やそこに住む人々のよさが分かり、地域に誇りをもつこと、地域が抱える課題を把握し、よりよい地域をつくるために考え行動することがねらいである。

熊野町は、「筆の都」として栄えてきた町であり、熊野筆は有名な工芸品である。しかし町は人口減少、居住者の高齢化が進んでおり、筆づくりの後継者が不足している。他にも、就労場所やレジャー施設等が少ないことなど多くの課題を抱えている。熊野町をよりよい町にするには、伝統を守り、よさを発信すること、町が抱える課題を解決していくことが重要である。

そこで本単元では、地域住民へのアンケート調査やグループ活動での話し合い活動を通して、熊野町の課題を見つけ、探究していく。熊野町の未来を考えることにより、地域の一員であることを自覚し、自らができることを考え実行していく力を育成したい。

生徒の実態

次の表は、本校で年3回（6月、9月、1月）行われる生徒質問紙において、本校で育成する資質・能力および総合的な学習の時間に関わる項目について本学年の生徒の回答を抜粋したものである。

【令和6年度6月実施 99人回答】

質問項目 (括弧内は、本校で育成する資質・能力)	肯定的回答(人)		否定的回答(人)		肯定的回答 (%)
	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	6	32	36	25	38.4
授業や勉強をするときに、各教科の知識・技能がスキルアップできるように意識しています。(スキルアップ)	29	52	15	3	81.8
自分の特徴や長所・短所を客観的に好意的に見取り、成長のために何が必要か考えていると思います。(自己分析)	32	44	20	3	76.8
自分で考えたことを、相手にわかりやすく伝えていると思います。(表現力)	29	50	16	4	79.8
自分の思いや考えを、自分の言葉や作品で表すことができています。(表現力)	19	56	22	2	75.8

自他の考えを客観的に分析し、他者の考えを取り入れながら多角的・多面的に考えていると思います。(表現力)	20	59	16	4	79.8
友人同士や教員、地域社会など対話的な活動を行いながら、協働する態度や姿勢を持っていると思います。(協働)	29	58	9	3	87.9
何事に対しても、主体的に意欲的に取り組み、チャレンジ精神を持っていると思います。(協働)	40	45	11	3	85.9

総合的な学習の時間に限らず、本学年の生徒の多くが意欲的に授業に参加している。教科の学習での班活動では、積極的に意見を出し合い、協力して課題解決に取り組む姿が見られる。しかしながら、総合的な学習の時間についての項目では、これまでの学習経験がないこともあり肯定的評価の割合が38.4%と4割に達しておらず低い。

また、本校で育成する4つの資質・能力について、特に「表現力」についての質問項目の肯定的評価の割合がすべて8割に達していない。本学年の生徒の多くは、様々な方法で自分の考えを表現しようとする意欲はある。しかしながら、学習内容をもとに根拠をもって自分の考えを分かりやすく表現することはできていない。

さらに次の表は、今回の単元にかかわる当該学年の生徒の熊野町に対する意識調査の結果である。

質問項目	肯定的回答(人)			否定的回答(人)		肯定的回答(%)
	よく当てはまる	やや当てはまる		あまり当てはまらない	全く当てはまらない	
あなたは、熊野町に愛着をもっていますか。	22	44	22	4	1	71%
今後も熊野町に住み続けたいと思いますか。	7	46	-	35	5	57%
熊野町を盛り上げるために何かしたことがありますか。	16		-	77		17.2%

自分たちが住んでいる熊野町に愛着をもっている生徒は71%と7割いるが、今後も熊野町に住み続けたいと思っている生徒は6割に満たない。そして、熊野町を盛り上げるための行動や経験をしている生徒については、2割に満たない。このことから、自分たちのふるさととなる熊野町をよりよい場所にするために「自分自身が関わっている」という当事者意識をもつ生徒は少ないと言える。

単元の指導

今年度の本校の研究テーマ「主体的・対話的に深く学ぶ生徒の育成～探究的な学習を通して～」、および、第一小学校・第三小学校と合同で取り組む令和6年度探究的な学びを中核とした「学びの変革」カリキュラム研究開発事業「地域を愛し 地域に愛され 地域に生きる生徒の育成～小中のつながりをもたせたシビックプライドの醸成～」を受けて、次の3点に重点を置いて指導を行う。

第一に、地域を題材とし、小中学校で系統性をもたせた単元とすることである。「郷土」に関わる学習は、小学校段階でも取り組まれている。そこで中学校段階では、小学校での学習をふまえ、より発展的・実践的な学習となるよう単元を構想した。本単元では熊野町を活性化させるために、自分たちが住んでいる地域のよさを発見して発信したり、課題の解決法を模索し、提案したりする力を育てたい。

第二に、主体的に学べるよう、生徒自身が地域社会の一員であることを認識し、自分ごととして捉えられる活動を仕組むことである。そのために、まずは生徒の視点から見た、熊野のよい点・課題点を出す。そのよい点・課題点が実際にそうであるのかを確認するため、グループに分かれ熊野町内でアンケートを実施する。アンケート結果を踏まえ、グループごとに発信する内容を決定し、町内や町外に向け

て発信できるような授業展開を構想した。

第三に、表現力の育成に資する単元とすることである。「生徒の実態」に詳述したように、「表現力」については、他の資質・能力に比べて生徒の自己評価が低い。そして、各教科の授業の成果物を見ると、自分の意見や考えはもっているが、根拠のある分かりやすい表現はあまりできていない。そこで、分かりやすく表現させるために、根拠をもたせたい。根拠をもたせる際には、自分の意見や考えの支えになるような情報を選ばせる。また、本単元ではグループで活動するため、グループ内で自他の意見や考えを交流・共有し、よりよい提案となるよう、協力しながら内容を吟味させていく。

単元の目標

人口流出や少子高齢化の問題を抱える地域がもっと賑わうように、地域の伝統や活性化に取り組む人々の取組を調べたり、地域の魅力や課題を踏まえた地域のイベントを開発して発信したりする活動を通して、持続可能な地域の在り方について考え、地域のよさを大切にしながら当事者意識をもって生活していくことができるようにする。

単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
評価規準	①熊野町には、そのよさを発信したり継承したりする人や組織があり、それぞれが連携して取組を進めていることを理解している。 ②熊野町の現状を捉えるために、アンケートやインタビューによる調査を、相手や目的に応じて実施している。【スキルアップ】 ③熊野町のよさや課題と持続可能な熊野町の在り方についての理解は、熊野町の魅力等の発信に取り組む人々と協働してきたことや熊野町の課題解決のために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①熊野町の活性化について、熊野町の実態や他地域との比較から課題を設定し、その解決に向けて計画を立てている。 ②熊野町を活性化するための課題解決に必要な情報について、目的や意図に応じて手段を選択して収集したり、情報の種類に応じて蓄積したりしている。 ③熊野町の活性化に向けた活動を進めるために、目的に応じて整理したり、他地域や過去の熊野町の実態と比較したりするなどして分析し、具体的な取組を考えている。 ④持続可能な熊野町にするための自分の考えを、表現する目的や相手に応じて内容を構成するとともに、適切な方法を選択し、論理的にまとめ表現している。【表現力】	①熊野町のよさを活かした活性化の在り方に関心を持ち、熊野町の現状を捉えたり未来予想をしたりするとともに、互いのよさを活かし自分の意志で目標をもって課題解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ②熊野町のよさを活かした活性化を進めるため、まちづくりに関わる人々等と協働して学び合おうとしている。【協働】 ③持続可能で魅力的な熊野町を実現するため、熊野町のよさを認識し継承したり、人々と関わったりすることの重要性に気付くとともに、自分にできることを見つけようとしている。

本単元で育成を目指す資質・能力のルーブリック

資質能力	A	B	B に到達させるための手立て
スキルアップ	B に加え、さらに調べたいことを見出しながら調べ、理解しようとしている。	自分たちのふるさとについて、調査結果を分析・整理する知識・技能を身に付け、相手や目的に応じた方法を理解している。	調査結果を分析・整理する際に、その方法の選択肢を提示し、取り組みやすい方法を選ぶようにする。
表現力	B に加え、明確にした根拠の適切さについて吟味しようとしている。	目的に応じて筋道立てて考え、根拠を明確にし、自分の考えを分かりやすく伝えている。	グループ内で考えを交流・共有させるとともに、必要な情報はどれか整理させる。また、提案するにあたり、自分たちが伝えたいことと提案内容が適しているかどうか、相手意識をもつこと意識できるようにする。
協働	B に加え、よりよい解決策を導き出そうとしている。	自分たちのふるさとについて、関心を持ち、自他の考えのよさを生かしながら、課題解決に向けて協働して取り組もうとしている。	自他の考えについて、よいところはどこか考え、グループ内で交流・共有しながら準備できるようにする。

指導と評価の計画

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
Ⅰ 熊野町の人の思いを知ろう。(10)	- 熊野町の現状(転入者は多いが転出者も多い)を踏まえ、よりよい町づくりについて考える。 - 自分たちが考える熊野町の魅力と課題を話し合う。(各グループでJambordを使用して考えを共有し、グルーピングでキーワードをまとめる。) 「おいしい熊野」を20年後も住み続けたいと思う町にするために何が必要か考える。		①		- 発言内容 - 行動観察 - 自己評価
	- 熊野町の魅力や課題について幅広く情報を集める。 - 知りたいことに応じた質問内容を作成する。 - 町を活性化させている他地域について情報収集し、クラス内で共有する。 - 鹿児島県出水鶴荘学園とオンラインで交流する。	②			質問内容
	- アンケートを世代別に整理する。 - 整理したことを基に熊野町の魅力と課題を分析する。 - グループごとに分析したことを基に、熊野町を活性化させるためのアイデアを話し合う。【本時】 - 町の産業観光課の方へ発表するための資料を作成		③		- 発言内容 - 作成資料 - 行動観察

	する。				
--	-----	--	--	--	--

	・町の産業観光課の職員を外部講師に招き、整理・分析した熊野町の魅力と課題、そこから考えた熊野町を活性化させるための提案を発表する。 ・町の観光振興課の職員の方から、熊野町の現状を聞いたり、アドバイスをいただいたりする。	①	④		・発言内容 ・作成資料 ・行動観察
2 熊野町のために自分たちができよう。(8)	・熊野町の現状を踏まえ、熊野町や熊野町外に熊野町の魅力や価値を伝えることに関して、熊野中学校の生徒としての課題を設定する。 ・自分たちができようことと熊野町に提案すべきことを区別し、話し合う。			①	・発言内容 ・コンセプトマップ
	・実行に移すために必要なこと(計画等)を考え、実行する。		②	②	・発言内容 ・計画表 ・企画書
	・実際に提案や発表すべきことを絞り、学校運営協議会の方へ発表するための資料を作成する。		③		・発言内容 ・企画書
	・学校運営協議会の方を外部講師に招き、取組の報告やこれから行うイベントのプランを提案する。 ・学校運営協議会の方から実現可能性について意見をもらう。		④		・発言内容 ・企画書
3 熊野町の魅力や価値を伝えるために自分たちにできよう。(6)	・熊野町の魅力や価値を伝えることについて話し合う。			③	・発言内容 ・行動観察 ・自己評価
	・テーマ別に何を伝えるか情報を収集する。 テーマ①熊野町について ②熊野中学校について ③組曲について		②		・発言内容 ・行動観察 ・自己評価
	・スライド資料や発表原稿等を作成する。		④		・発言内容 ・行動観察 ・自己評価
	・鹿児島県出水市立鶴荘学園とオンラインで交流する。 ・単元全体を振り返る。	③			・発言内容 ・自己評価

本時の学習（7／18 時間）

（１）本時の目標

目的に応じて整理したり、他地域と比較したりしながら、熊野町の活性化のためのアイデアを考えることができる。

（２）本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項（◇） 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て（◆）	評価規準 （評価方法）
1 導入（3分）		
○前時の内容を確認する。		
○本時のめあてを確認する。		
本時のめあて 分析したことをもとに、熊野町を盛り上げるためのアイデアを考えよう。		
○前時までの学習をふまえ、各グループで熊野町の産業観光課の方に向けた資料を完成させることを確認する。	◇相手にわかりやすく伝えることと、他のグループが納得できるような根拠を収集した情報から見出せるようにする。	
2 展開1（30分）		
○根拠を明確にしながら、熊野町を盛り上げるためのアイデアをグループで話し合う。	◇話合いの内容が第三者の視点に立ったときに、根拠が明確になっているかどうかなど相手意識をもたせる。 ◇話合いが進んだグループは、熊野町の魅力と課題を踏まえた提案資料の作成に入る。 ◆タブレット操作のサポートをする。	・目的に応じて整理したり、他地域の実践と比較したりするなどして分析し、考えることができる。 (思判表③) ・発言内容 ・タブレットの資料
3 展開2（15分）		
○各グループの進捗状況を確認する。	◇各グループの話合いの進捗状況を共有し、類似した内容があれば意見を出させる。	
【「概ね満足できる」状況（B）と判断する根拠】 分析した情報をもとに、根拠を明確にし、自分の考えを分かりやすく伝えるための準備をしている。 【「配慮を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て】 相手の立場に立った時に分かりやすく示すことができているかどうかグループで考えさせる。		
4 まとめ（2分）		
○ 本時の学習のまとめをする。	◇めあてに対する本時の振り返りを記入させる。	・自己評価